

# 令和2年度 西陵中学校についてのアンケート結果 分析と今後の方針

アンケート実施時期: 令和2年12月初旬

## 1 教育目標実現に向けた努力

コロナ禍で様々な活動が制限される中で、生徒評価が昨年度より8ポイント上がる評価となりました。保護者には1ポイント下がる結果となりましたが9割以上から肯定的な評価を得ました。今後もこの評価をもとに学校づくりビジョンの見直しや実現に向けた努力を引き続き行い、様々な機会を通して取り組みの成果を生徒、保護者へともにわかりやすく伝えていこうとします。

## 2 充実した学校生活

生徒・保護者共に9割以上から肯定的な評価を得、昨年度を上回る評価となりました。生徒にとっては充実した学校生活を送っていると感じ、保護者にとっても生徒の様子から評価いただけたと考察します。引き続き、いじめや暴力のない学校、安心安全な学校づくりを目指すとともに、生徒の心の変化に寄り添いながら日常的な取り組みに加え、定期的な教育相談、スクールカウンセラーとの連携を適切かつ迅速に行い、課題の解決に取り組んでいこうと考えています。また、全生徒の視点や立場に立った仲間づくりにしっかりと取り組み、一人ひとりが充実した学校生活を送れるよう生徒に寄り添った教育活動を続けていきます。

## 3 わかる授業

新型コロナウイルス感染防止のための休校期間があり、授業時間の確保や学習進度が心配されましたが、アンケートの結果を見ると「授業が分かりやすい」「授業改善や工夫がなされている」と答えた生徒が97%と、昨年よりも5ポイント上昇していることは、とても喜ばしい結果です。今後も、少人数教育やICTを活用した授業を工夫するなど、さらなる努力を続けたいと考えます。

## 4 適切な評価

生徒97%・保護者87%と昨年度より高い評価を得ています。ここ数年、各教科のシラバスを生徒および保護者に示し、評価の観点および評価の方法を明確にしていることがアンケート結果につながっていると考えます。定期テストや確認テストの点数や提出物だけでなく、毎時間の学習活動への参加状況や各單元における思考および技能や表現なども大切して評価に取り組んでいます。教師が評価の課程に具体的な説明責任を果たし、生徒が一層意欲的に取り組めるような授業の工夫と評価のあり方についてさらなる研修を深める必要があります。

## 5 キャリア教育の推進

生徒は98%と5ポイントの上昇、保護者は76%と9ポイントの減少がみられました。コロナ禍で職場体験学習が中止になったことは非常に残念でしたが、「達人に聞く」と題し、社会で活躍されている方々からお話を聞かせていただく機会を持つことができました。子どもたちが自分の将来について関心を持ち、生き方について考える機会となりました。来年度もぜひそのような機会をとっていききたいと思えます。

## 6 道徳・人権教育の充実

生徒の9割以上から肯定的な評価を得ている一方で、保護者は昨年度評価より1ポイント下がる評価となりました。「コロナ差別」や「SNSでの誹謗中傷」などの社会問題を取り上げ、クラスで話し合いを持つことができました。子どもたちにとって、身近でタイムリーな課題を話し合うことで、それらの問題を他人事ではなく自分事としてとらえられたと考えます。また、道徳の時間はもとよりすべての領域、教育活動において人権教育の充実を図り、「いじめ」のない、仲間づくりに重点を置いた指導を心がけ、生徒や保護者にそのことが実感できるよう、対応していきたいと思えます。

## 7 仲間づくり

99%の生徒が学級の仲間や友達との関係がうまくいっていると回答しています。しかし、1%でも「友達との関係がうまくいっていない」と感じている生徒がいるという事実をしっかりと受け止め、すべての生徒に視点を当てた指導を心がけたいと思えます。保護者においては昨年度評価より1ポイント上がる評価となりました。教育相談に力を入れるとともに、スクールカウンセラーや保護者との連携を強め、アドバイスや指導を行いながら、生徒と生徒、また、生徒と教師が円滑な人間関係を築けるよう、改善や集団づくりを行っていきます。

## 8 危機管理体制

9割以上の生徒、保護者が安全に学校生活を送れていると感じています。学校生活での安全はもちろん、学校外、登下校時の安全のため、教師による下校時の安全パトロールやPTAによる校外指導・挨拶運動を定期的実施しています。交通安全マナーが悪いとの指摘もあり、自分の身は自分で守るという観点から交通安全に関わる学習を実施しました。また、防災面においても今年度様々な角度からの緊急避難訓練の実施と、安心・安全な学校を目指し取り組んでいます。今後も生徒の安全意識を高め、安全確保のための体制作りをめざしていきます。

## 9 生徒指導上の問題への対応

生徒の評価においては前年度より5ポイント上昇し、99%が肯定的意見でした。しかし、保護者の評価においては昨年度と変わらないとなっています。生徒指導については、問題の早期発見・早期解決をめざして共通認識を持って取り組むという原則のもと、全員が危機感を持って対応する、という思いで解決を図ってきました。教師は休憩時間等教室棟で生徒との会話を通してコミュニケーションをはかってきました。今後もさらに危機管理意識を高く持ち、生徒が安心して学校生活を送れるように問題の早期発見・早期解決に努めるとともに、保護者との連携をとりながら、職員間の連絡を密にすることで組織的対応のできる体制づくりをめざします。

## 10 教育相談

生徒が5ポイント、保護者が6ポイント上昇し教育相談の充実がはかられたと考察できます。毎学期の定期的な教育相談や生徒との日常的な関係づくりの中で、相談活動は定着してきています。教育相談の意義について職員全員が共通認識の下でこれまで積極的に取り組んできた成果であるように考えられます。又、担当より定期的に保護者に向け広報活動もなされスクールカウンセラーとの相談件数も増加しつつあります。今後も担任と保護者とカウンセラーとの連携を一層強化することで相談活動の充実をめざしていきます。

## 11 部活動の充実

9割以上の生徒は、「部活動は楽しく充実している。」と評価しています。普段の活動の様子からも、熱心に活動している姿が見られます。保護者からの評価も8割弱が肯定的な意見をいただきました。教員数が少なく、限られた部活動になっているため、本来の希望にそぐわない活動をしている生徒もいます。もっと取り組みを増やしてほしい、指導の充実を図ってほしい等の指摘もいただきました。これらの指摘に対して真摯に受け止め、再度全職員がその教育的意義を認識することで、今後指導に当たっていききたいと考えます。

## 12 保護者・地域との連携

保護者からの肯定的な評価は前年度より1ポイント下回りましたが、97%の生徒が、地域の人や外部講師による学習活動が役に立つと感じています。教師以外の授業や学校外での活動を行ったり、保護者や地域の方に授業や行事を公開して生徒について話し合う機会を設けていることが評価されていると思います。今後も地域との連携を図っていく必要があります。

## 13 情報の発信・受信

生徒・保護者の評価は昨年度より11ポイント、14ポイントと大きく上がりました。本年度の取り組みの中で昨年度と比較して、総合的に一番大きな変化が読み取れる結果となりました。今後も、昨年度同様の評価が得られるよう努力し、情報内容の充実とタイムリーな発行・発信、また生徒への学年通信等による働きかけを行い、学校と家庭・地域がつながる取り組み、努力を行っていきます。